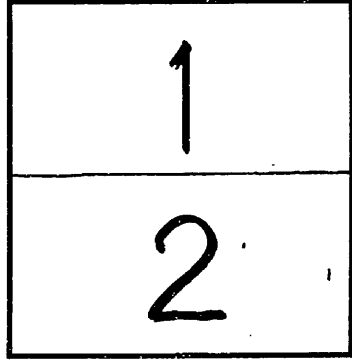


分割撮影ターゲット

分割した 部 分 の 撮 影 順 序	
分割撮影 した理由	A 3 版以上のため
文書等名	第十六師團將校高等文官職員表
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

第十六師團將校高等文官勳表

第十六師團將校高等文官職員表

昭和十二年五月二日現在

師團司令部 (京都市)

師團長 中將 中島今朝吾

參謀長 少佐 中島今朝吾

參謀 少佐 中島今朝吾

參謀 少佐 中島今朝吾

參謀 少佐 中島今朝吾

參謀 少佐 中島今朝吾

參謀 少佐 中島今朝吾

參謀 少佐 中島今朝吾

參謀 少佐 中島今朝吾

參謀 少佐 中島今朝吾

參謀 少佐 中島今朝吾

參謀 少佐 中島今朝吾

參謀 少佐 中島今朝吾

參謀 少佐 中島今朝吾

參謀 少佐 中島今朝吾

參謀 少佐 中島今朝吾

參謀 少佐 中島今朝吾

參謀 少佐 中島今朝吾

參謀 少佐 中島今朝吾

參謀 少佐 中島今朝吾

參謀 少佐 中島今朝吾

參謀 少佐 中島今朝吾

參謀 少佐 中島今朝吾

參謀 少佐 中島今朝吾

參謀 少佐 中島今朝吾

參謀 少佐 中島今朝吾

參謀 少佐 中島今朝吾

參謀 少佐 中島今朝吾

參謀 少佐 中島今朝吾

步兵第三十旅團司令部 (志都久居町)

旅團長 少將 佐々木到一

副旅團長 少佐 佐々木到一

參謀長 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

步兵第三十三聯隊 (志都久居町)

隊長 少佐 佐々木到一

副隊長 少佐 佐々木到一

參謀長 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々木到一

參謀 少佐 佐々

第十六師團將校高等文官職員表

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp>

[illegible]

[illegible]

發	月	日	午	時	分	發	地
着	月	日	午	時	分	發	地
受						者	信
者						殿	信

加多祝會中，已入，
光同

1411

發 着 者	月	日	午	時	分	殿	信發 地	信發 者	於
○ 軍部									
○ 1) 王									
○ 2) 街									
○ 3) 路									
○ 16.D									
○ 109.D									
○ 16.D									
○ 109.D									
○ 16.D									
○ 109.D									
○ 16.D									
○ 109.D									

發	月	日	午	時	分	發信者	於
着	月	日	午	時	分	地	
受						發	
信						者	

10, D. ... 1-1-19 ... 檢票 ...
 10, D. ... 1-1-19 ... 檢票 ...
 10, D. ... 1-1-19 ... 檢票 ...
 10, D. ... 1-1-19 ... 檢票 ...
 10, D. ... 1-1-19 ... 檢票 ...

75D

第50部ノ内第9巻

第二軍滏陽河左岸進出要領

第一方針

軍ハ石家莊方面敵軍主力ノ背後

ヲ衝キ之ヲ數回滅スル爲先ツ第十

六師團ヲ以テ最モ神速ニ衡水

新河間ヨリ滏陽河左岸地區ニ進出シ

引續キ當面ノ敵ヲ攻撃シ第百九師

團ヲ以テ第十六師團ニ續行シ武強
方面情況ニ依リ其他ノ方面ヨリ
渡河シ第十六師團ニ策應ス
第十六師團ノ左岸進出時期ヲ
九月下旬下半ト豫定ス

第三、獻縣攻撃ニ至ル間ノ行動

ニ第十六師團ノ獻縣ニ至ル子牙河

沿岸地區進出ヲ迅速容易ナラシムル

爲直接其第一線部隊ニ近キ目標

ヲ爆撃スルノ外適時河間及獻縣

等ノ要地ヲ爆撃ス

三、獻縣ノ攻撃ニ方リテハ第十六師

1415

團中輸送順序後位ノ部隊ヲ充テ

1416

同市街ノ東北若ハ東北方ヨリ重

點ヲ指向ス

四、第百九師團ハ第十六師團ノ南進ニ

伴ヒ其地歩ヲ進ム

五、後方警戒備ハ爲メハ主トシテ第百九師

團ノ部隊ヲ用フ但滄石鉄道路盤

（合）上流釜陽河水路ノ要點確
保ヲ爲スル第十六師團ノ部隊ヲ用テ
六此期間ニ於テ原企圖秘匿手段概ネ
次ノ如シトシテ第十六師團ノ
舟艇並其機動準備ヲ隱蔽スル爲
所要地區ノ立入禁止ニ子牙河兩岸交
通禁止同河兩岸ニ監視網ヲ設置

同河上下航ノ禁止、部隊集結地外
周ニ於ケル通信線ノ遮断等又企圖
偽騙ノ爲前記ニ、爆撃手ト関聯シテ
阜城、景縣ニ一部ノ爆撃手等ヲ行フノ
外、獻縣、阜城ヲ經テ德縣ニ向フ如ク
暗ニ流布ス之ニ伴ヒ路案内等ヲ
大袈裟ニ準備シ且飛行機ノ偽偵

察ヲ行ヒ尚舟艇ハ之ヲ下流ニ向ケテ
繫留セシム

第三 獻縣攻撃後ノ行動

第七 第十六師團主力ハ獻縣攻撃ニ引續

キ直ニ舟艇ヲ利用シテ新河下流王

李集附近ニ於テ滏陽河左岸地區ニ

進出シ隨處ニ當面ノ敵ヲ撃破シツツ

石家莊方向ニ突進スルハ
衛
情況已ムヲ得サルトキハ武強衡水間ニ
於テ滏陽河左岸地區ニ進出スルコトアリ
又一部ヲ以テ主トシテ水路ニ由リ速ニ
新河附近ヨリ直路西行平漢鐵道ヲ
遮斷ス

八
✓
第百九師團ノ部隊ハ第十六師團ノ

南進ニ伴ヒ其地歩ヲ進メ第十六師
團主力ノ水上輸送ニ引續キ舟艇ヲ利
用シテ概ネ滄石鐵道路盤ニ沿フ地
區ニ於テ滄陽河左岸地區ニ進出ス
九第十六及第百九兩師團ノ殘部並
軍直轄部隊ハ獻縣附近ヨリ滄石鐵
道路盤ニ沿ヒ架橋、漕渡等ノ方法ヲ

併用シツツ滄陽河及其西側浸水地域
ヲ渡漕^過シ概ネ第百九師團ノ後方ヲ
石家莊ニ向ヒ前進ス

1422

⑨ 第四 水上機動要領

十兵力輸送ノ要領

第十六師團主力ハ数梯團ニ分チ各
梯團ハ之ヲ更ニ乃至三組ニ區分ス
先頭梯團ハ其兵力歩兵二、三大
隊ヲ基幹トシ之ニ特ニ強大ナル獨立
性ヲ附與シ敵前上陸ヲ行フニ適セ

シム

舟艇ハ逐次之ヲ廻航シ次ノ輸送ニ

充ツ

✓第百九師團ハ輸送亦前項ニ進ス

水上輸送ノ爲機動船隊ヲ編成ス

土水上機動ハ勉メテ夜暗ヲ利用スルモ航

程其他ノ關係ニ依リ晝間強行セサルハ

力ヲサル場合アルヲ豫期ス

十二 献縣 趙橋鎮 衡水等沿岸要地ヨリスル

1425

航行妨害ニ對シテ豫メ妨害排除部

隊ヲ部署シテ必要ノ行動ヲ執リ且所

要ノ兵力ヲ残置シテ爾後ノ航行ニ支

障ナカラシム

又晝間航行ニ在リテハ適時爆撃ヲ併用

シ尙夜間航行ニ在リテモ企圖秘匿其
他ノ利害ヲ較量シ所要ニ應シ事前
爆撃ヲ行ヒ航行ノ安全ヲ圖ル

主水上機動ニ於ケル編制裝備等ニ関シ
特ニ着意スヘキ事項概ネ次ノ如シ

(1) 重火器就中重機ノ携行數ヲ多カラ
シメ就中先頭ノ組ニハ各舟艇ニ重機

少クモ一ヲ裝備ス（獨立機關銃大隊ヲ使用）

(2) 某期間ノ獨立戦闘ニ耐フル爲彈藥ハ

勉メテ多ク糧食ハ概ネ一週間分ヲ携

行ス

(3) 給水衛生機關ヲ携行ス

(4) 車輛牽引用索條ヲ準備ス

古水上機動ヲ容易ナラシムル爲特ニ着意

スヘキ事項概テ次ノ如シ

(1) 水先案内ノ使用並之ニ伴フ企圖秘匿

(2) 船隊航行ノ爲メ所要施設（燈火信號

航路標識・測深等）

(3) 水陸ノ障礙排除ノ爲メ施設（裝備上

障礙排除ノ爲メ同排撃部隊ノ指

定煙幕ノ利用等）

(4) 飛行機ニ依ル事前偵察ノ外晝間航行ノ場合又ハ其地域ニ在リテハ勉メテ飛行機ニ依ル誘導又ハ戦闘指導(所要ニ應ジ参謀等搭乘)ヲ行フ(進路上ニ於ケル天然人爲ノ水陸障礙及妨害ノ偵知 上陸點ノ指示 浸水狀況ノ通報ト進路ノ選定 指揮連絡等)

1894年11月14日
 1894年11月14日
 1894年11月14日
 1894年11月14日

第五 其他

主友軍部隊相互ノ識別ヲ容易ナラシ

ムル爲別ニ定ムル旗章ヲ曰章旗ト併

用ス

其我部隊ノ行動ヲ秘匿スル爲部落等

ヲ占據若ハ通過スル毎ニ其附近ニ於

テ通信線ヲ遮断スルニ勉ム

1432

發着	受信者	殿	發信地	於		
月 日 午 時 分	月 日 午 時 分					
軍隊送分						
此等物送配全						
提議取送 區部南平、平島、新ハニ						
枋園送分						
瑞光切清						
瑞光切清 瑞光切清 瑞光切清 瑞光切清 瑞光切清						
細田米澤						
瑞光切清 瑞光切清 瑞光切清 瑞光切清 瑞光切清						
瑞光切清 瑞光切清 瑞光切清 瑞光切清 瑞光切清						

發者	月	日	時	分	發信地
受信者	月	日	時	分	發信地

發信地
 受信者
 月 日 時 分
 月 日 時 分
 發信地
 受信者
 月 日 時 分
 月 日 時 分

發	着	受	信	者
---	---	---	---	---

[illegible]

發	着	受信者	殿		發信地	於
			月	日		
			時	分		
上陸、行部						
一、過、口、後、に、百、工、日、に、後、に、往、る、						
二、在、建、一、路、及、水、路、等、に、沿、り、往、來、す、						
三、大、多、の、船、隻、が、往、來、す、						
四、船、隻、の、往、來、は、年、々、増、加、す、						
五、船、隻、の、往、來、は、年、々、増、加、す、						
六、船、隻、の、往、來、は、年、々、増、加、す、						
七、船、隻、の、往、來、は、年、々、増、加、す、						
八、船、隻、の、往、來、は、年、々、増、加、す、						
九、船、隻、の、往、來、は、年、々、増、加、す、						
十、船、隻、の、往、來、は、年、々、増、加、す、						

者信受	着	發
	月	月
	日午	日午
	時	時
殿	分	分
者信發	地信發	於

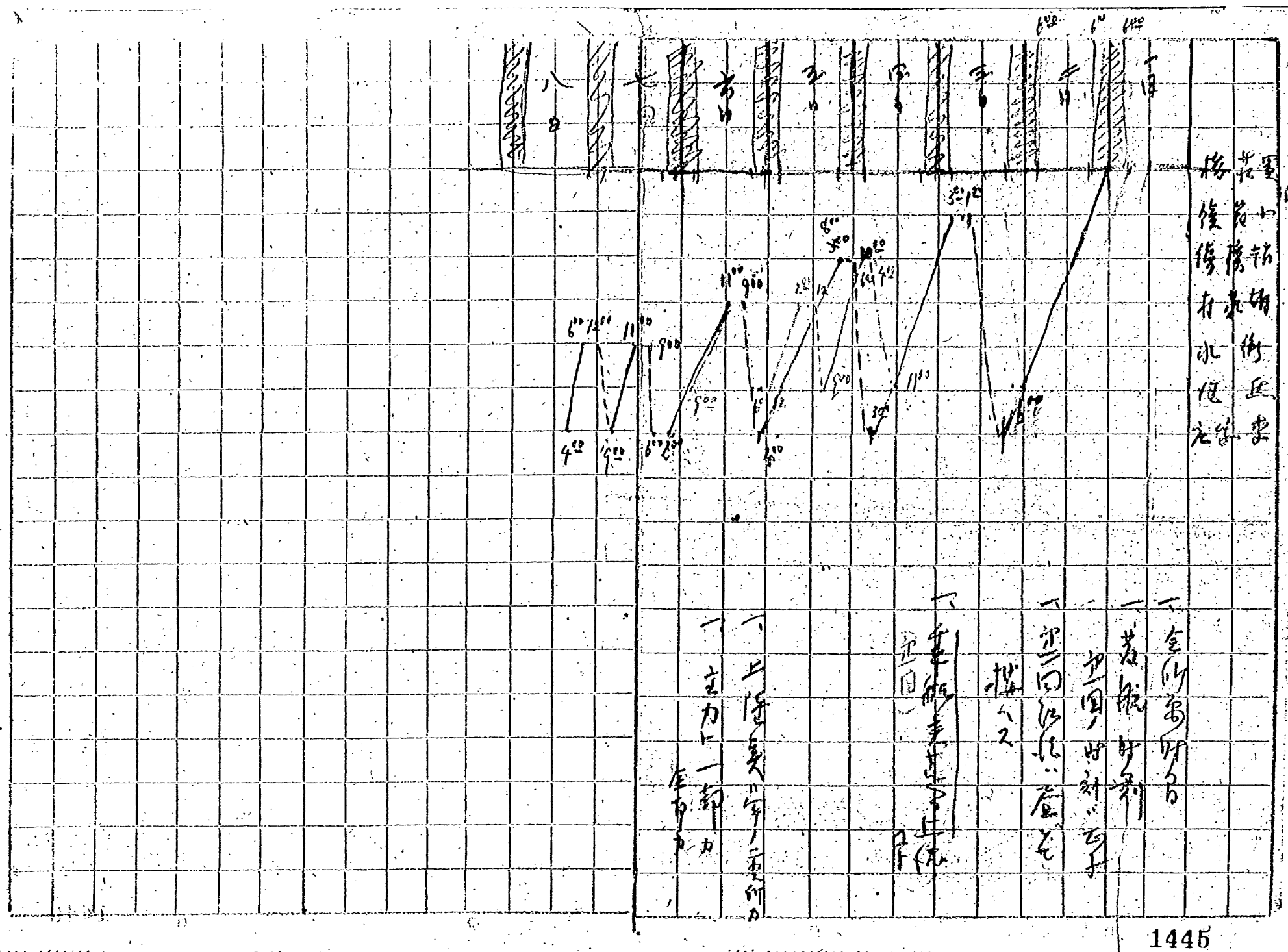
失敗とては、場合、行違
 本向、テ、
 按、テ、後、即、断、至、
 同、
 名、
 行、

1443

												發	着	受	信	者
												月	月	日	日	時
												時	時	分	分	殿
												發信地		發信者		
												於				

一 江戸
 二 江戸
 三 江戸
 四 江戸
 五 江戸
 六 江戸
 七 江戸
 八 江戸
 九 江戸
 十 江戸
 十一 江戸
 十二 江戸
 十三 江戸
 十四 江戸
 十五 江戸
 十六 江戸
 十七 江戸
 十八 江戸
 十九 江戸
 二十 江戸
 二十一 江戸
 二十二 江戸
 二十三 江戸
 二十四 江戸
 二十五 江戸
 二十六 江戸
 二十七 江戸
 二十八 江戸
 二十九 江戸
 三十 江戸
 三十一 江戸
 三十二 江戸
 三十三 江戸
 三十四 江戸
 三十五 江戸
 三十六 江戸
 三十七 江戸
 三十八 江戸
 三十九 江戸
 四十 江戸
 四十一 江戸
 四十二 江戸
 四十三 江戸
 四十四 江戸
 四十五 江戸
 四十六 江戸
 四十七 江戸
 四十八 江戸
 四十九 江戸
 五十 江戸
 五十一 江戸
 五十二 江戸
 五十三 江戸
 五十四 江戸
 五十五 江戸
 五十六 江戸
 五十七 江戸
 五十八 江戸
 五十九 江戸
 六十 江戸
 六十一 江戸
 六十二 江戸
 六十三 江戸
 六十四 江戸
 六十五 江戸
 六十六 江戸
 六十七 江戸
 六十八 江戸
 六十九 江戸
 七十 江戸
 七十一 江戸
 七十二 江戸
 七十三 江戸
 七十四 江戸
 七十五 江戸
 七十六 江戸
 七十七 江戸
 七十八 江戸
 七十九 江戸
 八十 江戸
 八十一 江戸
 八十二 江戸
 八十三 江戸
 八十四 江戸
 八十五 江戸
 八十六 江戸
 八十七 江戸
 八十八 江戸
 八十九 江戸
 九十 江戸
 九十一 江戸
 九十二 江戸
 九十三 江戸
 九十四 江戸
 九十五 江戸
 九十六 江戸
 九十七 江戸
 九十八 江戸
 九十九 江戸
 一百 江戸

一、小行要、
 一、中、大は、
 一、小行要、
 一、中、大は、



•

發	者	受信者
月	月	
日午	日午	
時	時	
分	分	殿
發信地	發信者	
於		

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

發	著	受信者
月	月	
日	日	
午	午	
時	時	
分	分	殿
發信地	發信者	
於		

~~一、不計
二、多選時點
也宋~~

道徳信守
以高格

陸軍

二四
欣平

岡本大佐

中澤参謀長殿

此日、飛り機、枕せうに貴翰に、好愛、漸多申中
る様、此の様に、戴き置、有れ、謹言、此様
先此、貴師事、戦況、念、此其、段間、謹言、
不遜、姚馬渡以来、随分、此心、常多り、ト、お察、意
外、報、強、た、敵、相、抗、不、拘、能、う、迄、此、任、務、萬、進、実
進、せ、う、了、了、矣、此、様、心、討、て、其、多、此、失、禮、満、幅、一、致、意
ヲ、表、し、上、参、り、此、様、然、祈、傳、言、を、念、臨、格、月、ハ、
引、戻、き、追、午、に、テ、九月、末、系、ハ、十月、早、々、ハ、西、定、ノ、敵、津、地
前、に、殺、制、可、致、形、勢、有、之、何、レ、ト、カ、レ、テ、九月、下旬、に、迄
此、何、在、者、進、出、要、切、工、を、了、此、上、に、何、カ、宣、教

御覽 甲三亥

之國之是非は何れ打合へ上り申中より水路・上陸・兵馬・細部
佐々木・佐々木・佐々木・新へ兵馬・参謀・通之・明ニテ五日
午後五・四・三・二・一・宣へ如都合ト即ち十夜罷去り内是
佐々木・新へ兵馬・佐々木・佐々木・初合上り参謀・未詳・おれ
ノ参謀・相之・不・要・取・りし
又進出要領・佐々木・参謀・佐々木・佐々木・参謀・未詳・おれ
之・佐々木・律・ハ・リ・ニ・参謀・未詳・おれ

相大城誤爆ノ件ニ関し、何れトモ申譯之 當時軍ニ
大城ニ・未・参謀・佐々木・参謀・入りアラスト思惟せしト勿論
此爆撃ニ従つて軍令・佐々木・相之 唯・佐々木・隊が他上
ノ連絡ヲ了得ニ得ヤリ・相之・遺憾ニ任・存所ノ責
即ち軍トシテハ・佐々木・隊トシテハ・只・一・途・参謀・未詳・進出ノ

促進ノ爲メキ一取、去々々ノ如許奉ル^ル又二十三日
 陸軍部ノ所^所出^出電、大城占領ノ入電以前ニ
 發シタルモノニシテ大城占領ノ件ハ其直後ニ接午大ニ
 輪轉シ^シ隊始ト各方面ヲ調査シ始メタル迄^迄（午
 後十時頃）ニ付大城誤爆トハ先同係ノモノ、抑之此點
 詳示ス^ス

昨日午後死傷者甚多ノ件入電 軍司令官大ニ痛
 悼セ^セ直ニ電^電セ^セタル迄^迄、有^有又航空兵團
 ヲ^ヲハ山嶽下休養隊、協力航空部隊^等春日隊^等
 團ヨリハ春日隊自^自直ニ軍司令官ニ來^來リ深^深
 痛悼ノ意ヲ表^表シ此^此越^越貴師團、傳^傳ヘ^ヘタル事^事皆依頼
 有^有之^之云

本件、固シ將來^來新^新隊ト地上部隊トノ間、乖離^{乖離}ヲ生^生スル
 不^不知^知ナ^ナリ^リハ軍將來ノ作戰上由^由タル事^事ナ^ナリ、抑之此^此点

書翰本之卜重復致之十八日午前迄。

大城誤爆之國之事情調査要旨。

一、二十日午前九時乃至十時三十分、栗山部隊衣川隊

偵察報告要旨

南浦村鎮

大城

中

90

大城

大城

豊

中

中

中

中

衣川隊の調査による結果、如千大城占領確信、可決之。

二十日午後八時より例日一如ノ栗山隊中隊長及隊力長	田飛山同部隊隊司令部、金同、当日、情に報告及	翌日、為、打合セヲ行ヒ、令九時過散會ス	三、電音 ^{四時} ノ部、茶電	四、午後十時、伏大城占領電接中	五、電音四十九時、發電	一、午前十一時、イ過、軍ヲ、方面軍及協力部ヲ、團、新ニ	大城降中ノ希望スル旨、電達	二、在、天祥、春田飛行團、ヲ、在、即、所、爆撃隊、派、シ、一、隊、一、位置、是	明、カ、ナ、リ、テ、同、方面、ノ、動向、ハ、協力、大城、ノ、降、撃、ス、一、旨、	電達	三、午後四時、五、バ、次、降、撃
--------------------------	------------------------	---------------------	--------------------------	-----------------	-------------	-----------------------------	---------------	---	--	----	------------------

衡水—新河間陽河畔偵察要圖

(日九十二月九)

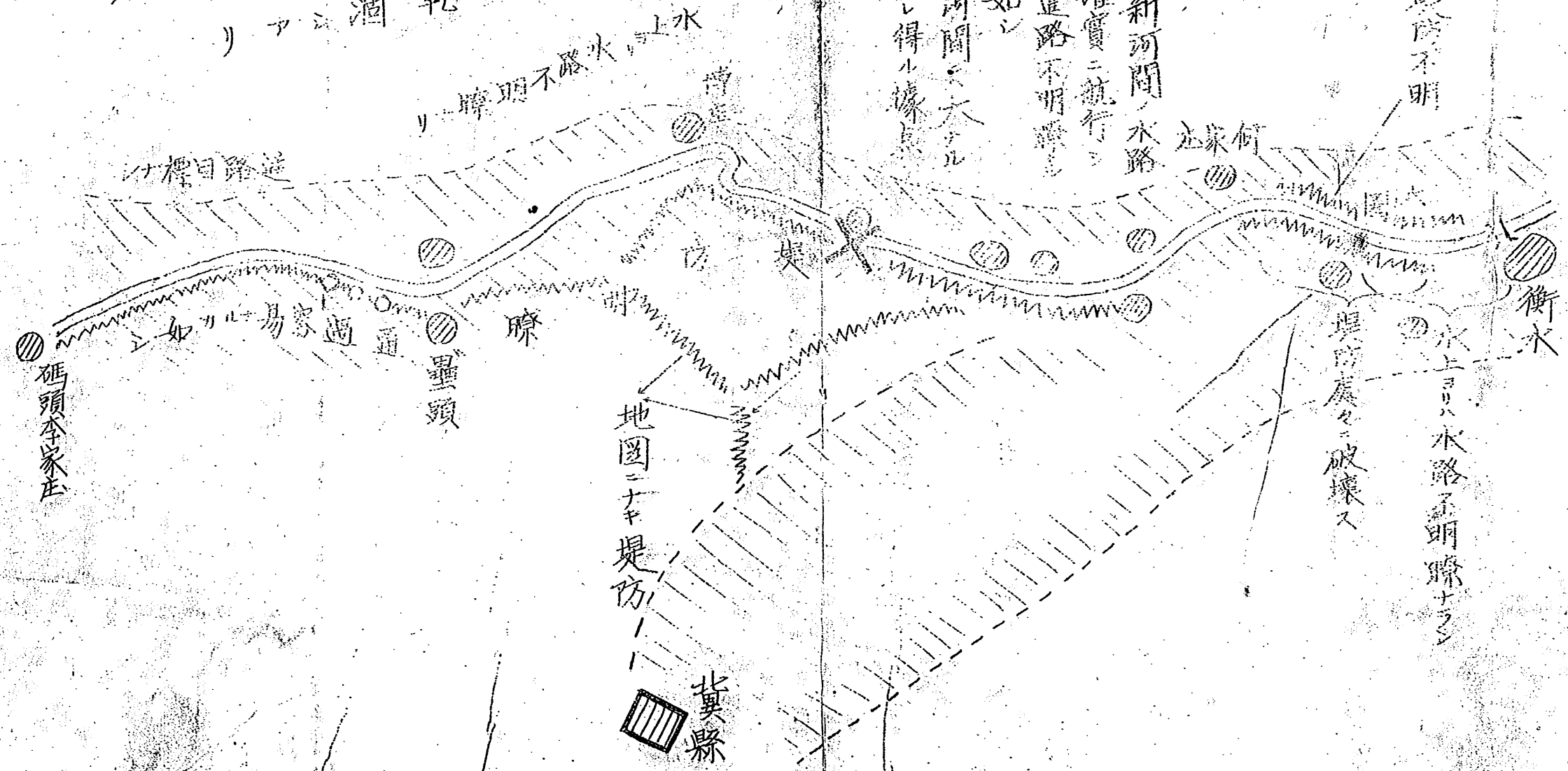
其一

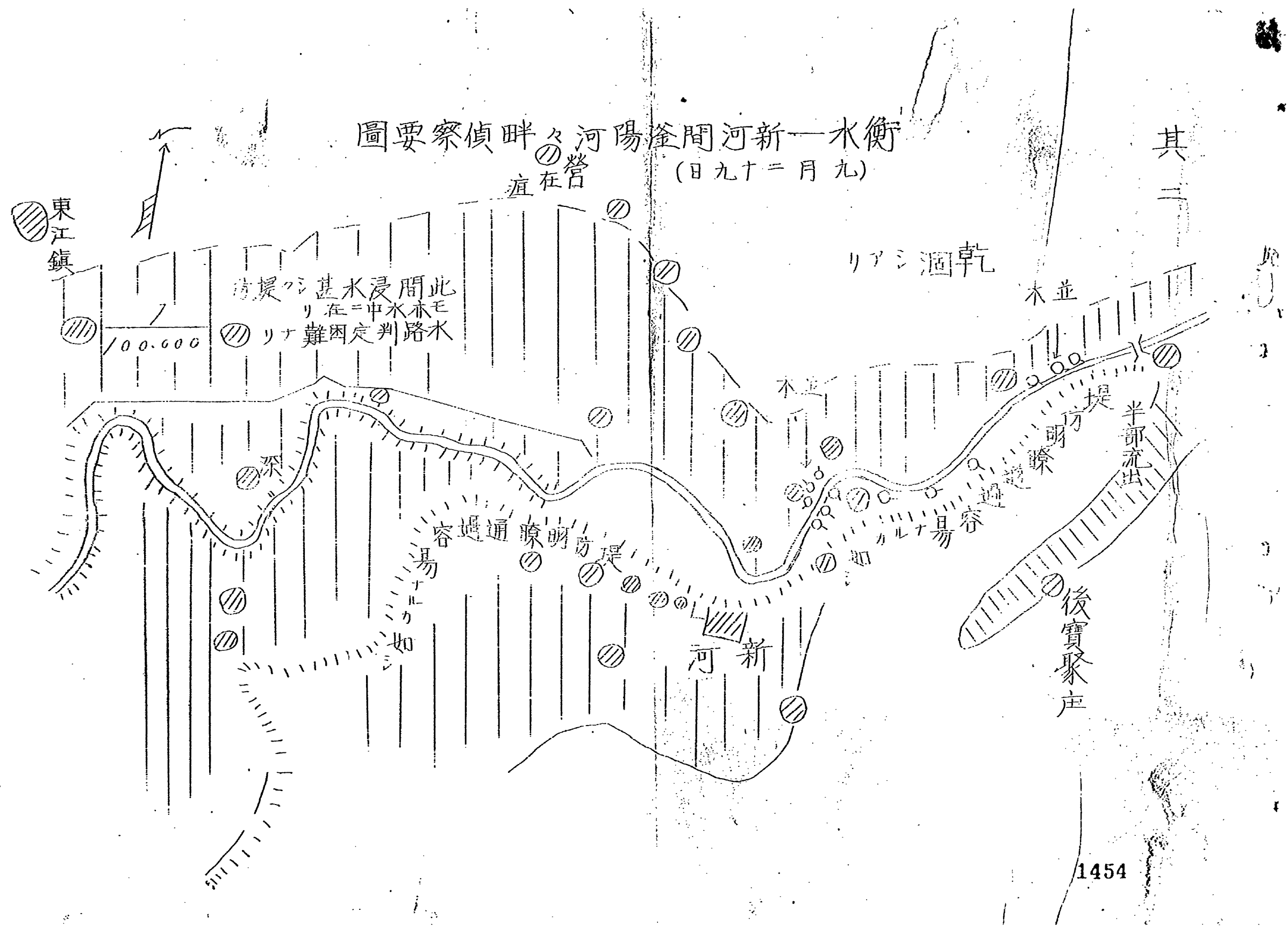
判決

一 衡水—新河間水路
ハ概テ確實ニ航行シ
得ル處 道路不明
地ニアルヲ
如シ
二 衡水新河間六ノル
抵抗ヲ爲レ得ル據
ナキヲ如シ

100,000

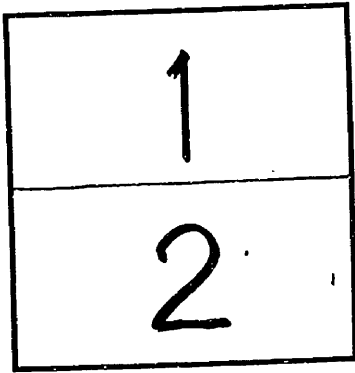
乾酒





1454

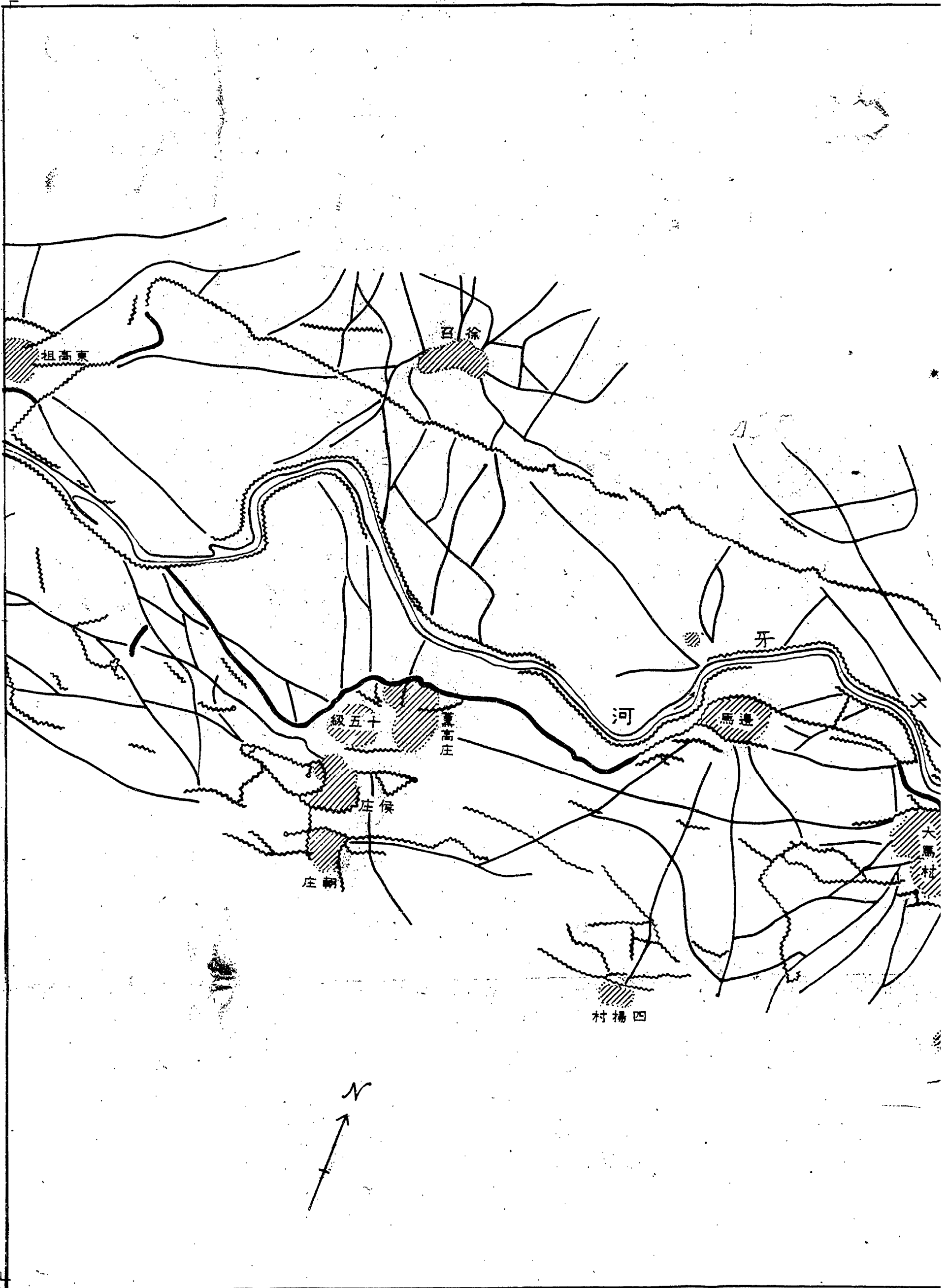
分割撮影ターゲット

分割した 部 分 の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版以上のため
文書等名	子牙河沿線情報図第六號
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

子牙河沿線情報圖第六號

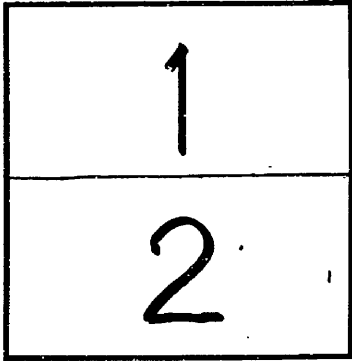
第一





第二野戦測量隊調製

分割撮影ターゲット

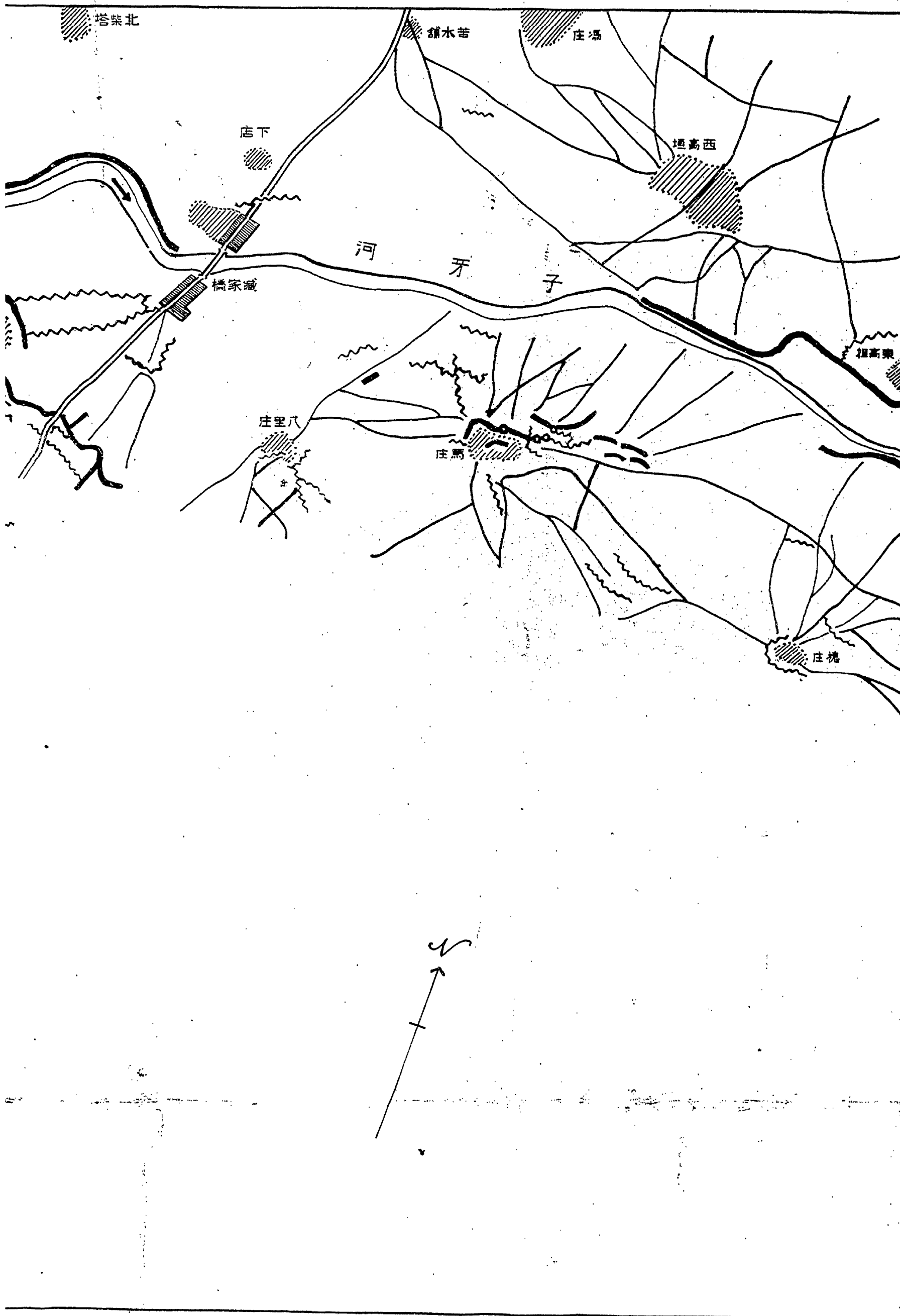
分割した 部 分 の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版以上のため
文書等名	子牙河沿線情報図第七號
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

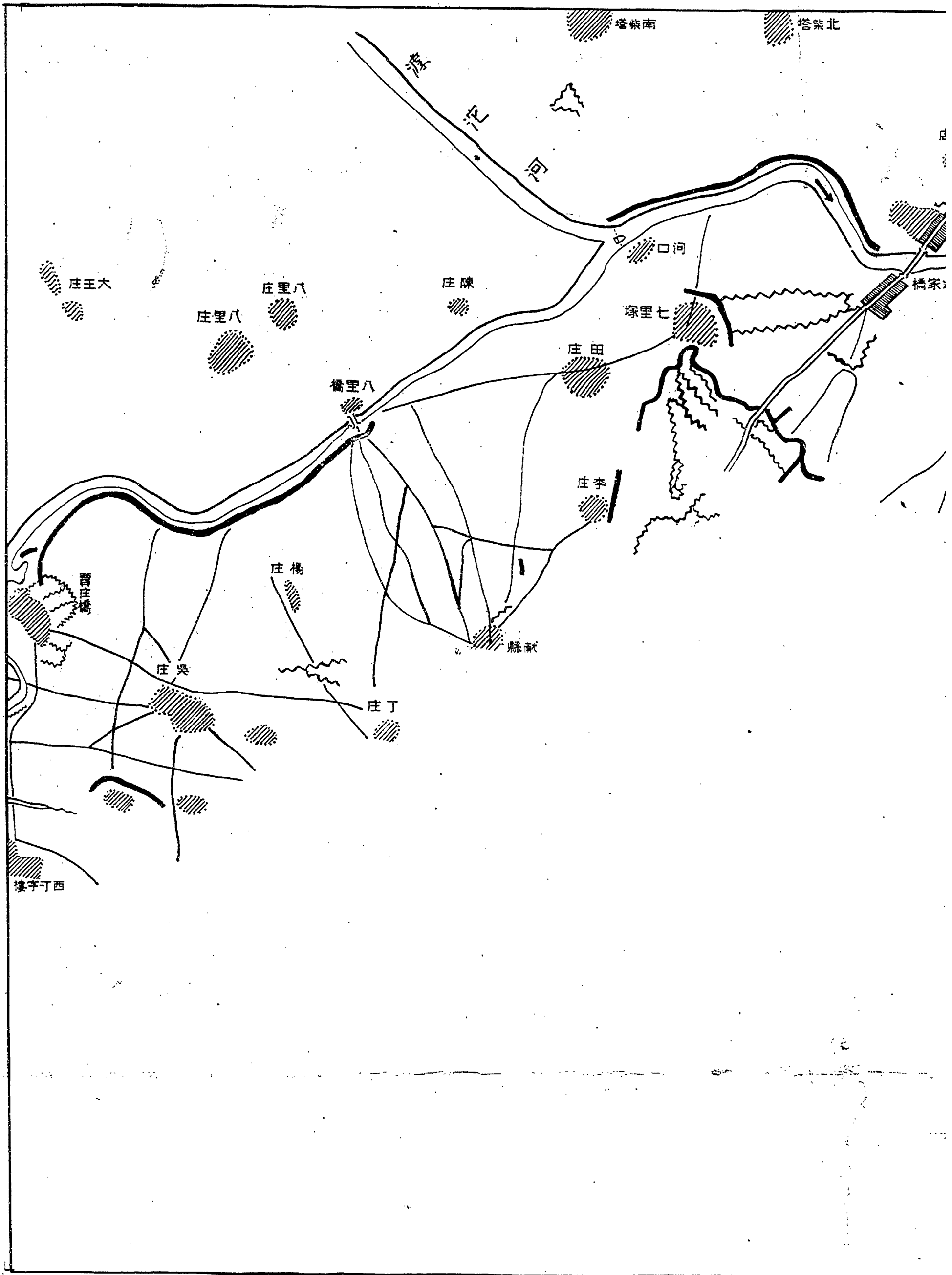
一 二 三 四 五 六 七 八 九 〇

1457
1458

二万五千分一

子牙河沿線情報圖第七號





第二野戦測量隊調製

機動實施ニ關スル規定

機動船隊長 加藤中佐

昭和十二年九月三十日
中島部隊複刷

1459

機動實施ニ關スル規定

第一、舟艇ノ符號及搭載人員器材ノ標準

④ 裝甲艇

二名以内

③ 小發動艇

二〇乃至二五名 艇ニ依リ差リ

② 操舟機三個附
小發動艇

二〇名

① 大發動艇

六〇名(又、野砲車輛三軸人員十名)

① 折疊舟二隻ヲ携ヘルモノ

一隻ニ付一〇名(又、山砲(分解)一門兵五名)

① 小蒸汽船

三〇名

人員ノミ搭載スルモノトシテノ總數 第一回航行 一七四五名
第二回航行 一三〇五名

但此ノ人員ハ九月十九以後舟艇到着並ニ故障ノ發生ノ情況ニ依リ變更
スルノ止ムヲ得サルコトアリ

第二 船隊ノ隊形

一 第一船隊

第一區隊

一 二五名

第二區隊

二 六二名

計

二 八八〇名

二 八八〇名

機后航(折疊) 27
 か 蔵 字 物 34隻
 師 団 配 名 20

三 第二船隊

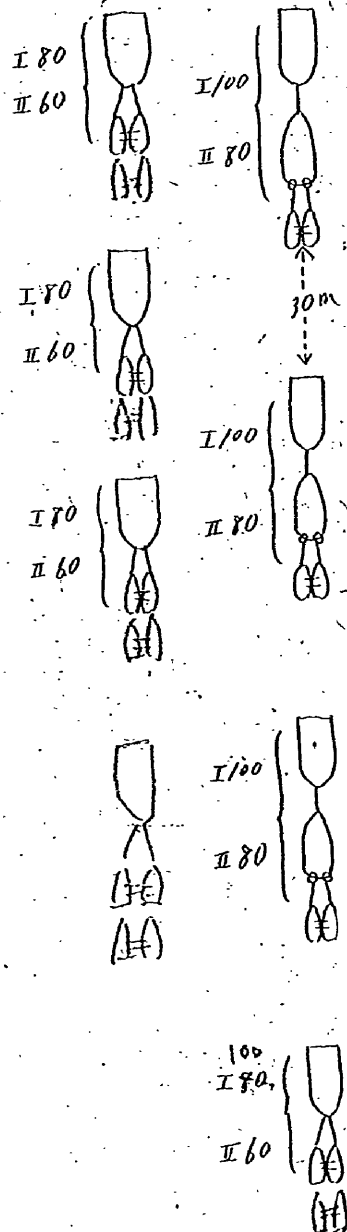
三三五
 十名 (第一回ノミ)



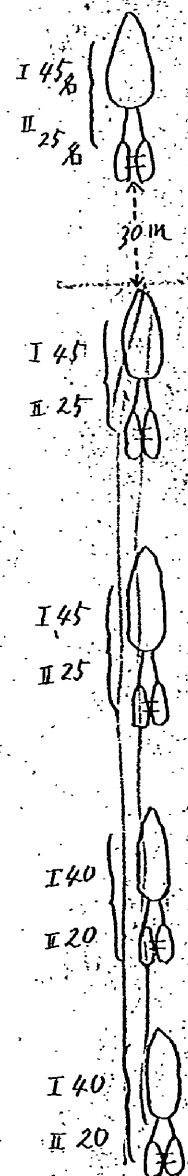
小發動艇ニ重機一
 大發動艇ニ重機一若クハ二

ヲ搭載し航行中射撃し得

隊區分第



(III) 隊區分第



第三船隊

第一區隊
第二區隊

Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ Ⅴ
一 二 三 四 五
〇 〇 〇 〇 〇
名 名 名 名 名

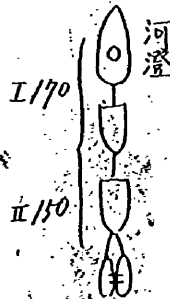
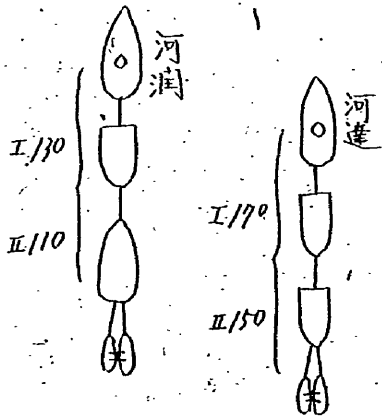
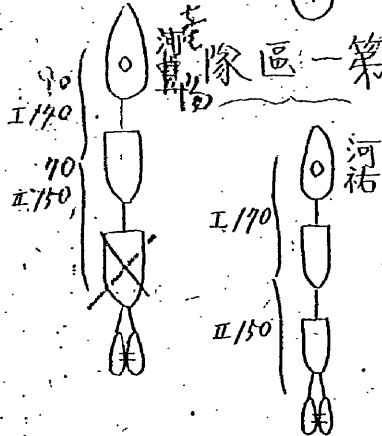
計

Ⅱ Ⅰ
一 一
〇 〇
名 名

325
130
845

1900

第一區隊



人員ノミトニテ總計

第一回 十七名
第二回 十七名

第三 乘艇時及航行中ノ注意

一 乘艇時

ノ部隊ハ搭載量ヲ嚴守シ艇長ノ制止ニ對シテ無視シテ無理搭
載乗艇等セサルコト

2 乗艇ノ動作ハ順序正シク整齊ト行フコトニ努メ又乗艇後艇中ニ
立上リ又ハ舷外ニ手又身体ヲ出ササルコト

3 各船隊ノ速力ノ標準ノ如シ

第一船隊

時速平均 五料

第二第三船隊

四料

三 航行中

1 乗艇部隊ハ艇ノ運行ニ干渉セサルコト

2 不意ニ敵ノ射撃ヲ受クルモ決シテ立上リ又ハ動揺セサルコト

3 敵彈等ノ爲沈没ノ危機ニ遭遇セル場合ハ艇長ノ指示ニ從ヒ

沈著整齊ニ動作スルコト

4 前項ノ場合ニ於テ小蒸汽船及各舟艇ハ成シ得ル限り陸岸近

ク坐礁スルニ努メ航路ヲ開放スルモノトス

5 敵彈ヲ受ケ又ハ機關故障等ノ爲航行不能ニ陥リタル舟艇ハ直

ニ他ノ艇ニ對シ信號スヘシ但シ他ノ發動艇ニ對シ曳航ヲ要求スヘカ

ラス

此場合機關ノ調子良好ニシテ充分他ヲ曳航シ得ル艇ハ進ニテ曳航
ニ任スルモノトス

第一項ノ舟艇ハ乗艇部隊先任者ノ指揮ニ從ヒ行動スルモノトス
敵彈等ノ爲空孔ヲ生シタル際ハ直チニ補修材料ニ依リ應急
處置ヲ施スモノトス而シテ此ノ處置ハ其附近ニ在ル者ヲ行フ

第四 上陸ノ際ノ注意

一 舟艇達着時

一 舟艇ヲ著岸セシムル船隊毎ニ乗船部隊先任指揮官ノ命ニ依ル
二 舟艇著岸ノ爲方向変換ヲ爲スニ際シテハ直チニ各舟艇ハ模
合ヲ解キ各舟艇毎ニ著岸シ艇長ノ「上陸」ナル呼号ニ依リ速ニ上
陸シ敵方ニ面シ射撃ノ準備ヲナス折疊舟ハ搁坐地点ノ前方
范濫シタル時ハ搁坐ト同時ニ全員ニテセヲ泛水シ得ル個所迄搬
送シ艇長ノ「乗艇」ト云フ呼号ニ應ジ乗艇シ陸地ニ向テ全速

ニテ航走ス

3. 折置舟ノ上陸終レハ直ニ引き返シ發動艇ヨリ上陸セル部隊ヲ乗セテ陸地ニ向ヒ爾後セテ繰返ス

4. 各船隊空舟トナリテ下航スルニ際シテハ折置舟ハ其儘現在地ニ残り第二船隊長ノ指揮ヲ受ケ

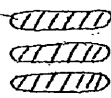
5. 第二船隊ノ部隊上陸セハ第一第二船隊ノ折置舟ハ速ニ第三船隊ノ上陸ニ協力ス

6. 舟艇達著後部隊上陸セハ舟艇ハ速ニ下航シ船隊長ハ適時之ヲ集結シ起点ニ向テ下航ス

第五 其他

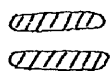
一、機動船隊長以下ノ標識左ノ如シ（腕章）

黒地



機動船隊長

晝間・白色・夜間・螢光以下同シ



區隊長及將校准士官

各船隊長

上官及艇長

艇員

二、第二回輸送部隊ノ乗船地ハ

ト予定ス

三、航行中ニ於テ障碍排除及煙ノ使用ハ裝甲艇ノミセニ任ス

四、航行中ニ於テ射撃ハ船隊内ノ先任指揮官ノ命令ニ依ルモノトス

五、上陸ト同時或ハ航行中ニ生シタル死傷者ハ下航舟艇ニ依リ乗船場

ニ於テ揚陸スルモノトス

六、舟艇内ニ於テハ湯茶ノ補給ハ不可能ナリ

七、乗艇部隊ハ成ルヘク乗艇前用便ヲ済シ置クヲ要ス

八、飛行機ヨリ通信筒ノ投下アリタル際ハセヲ拾ヒ上ケタル舟艇ハ

艇員ヲシテ信號ニ依リ機動船隊長、各船隊長及乗艇部隊先

任指揮官ニ通達セシムルモノトス

受信者	10月2日午後1時	發信者	於
中沢年電	月 日 午 時 分	發信地	小倉發
殿			九
			10月2日

地電

一、午前六時小倉鐵道二連入

信地所也、部、107、108、仰、合、約、一

国三千(ミシ)多数(三十)ノ自動車

ヲ送金(送金不良ノ止ムナリ)送金

ミ、如、全部利用(得る)送金は

既、及、左、岸、道、段、ヲ、送、金、

士、送、金、信、ハ、武、強、方、向、ニ、主、力、ヲ、

送、金、ト、シ、テ、大、元、ト、送、金、ス、ル、

目下、探、索、中、

二、右ノ、部、(昨、午、六、時、以、リ、夕、刻、

迄)ニ、於、テ、比、較、的、多、數、ノ、死、傷、ヲ、

受、ケ、温、地、ノ、リ、動、ハ、難、シ、ニ、

(中、中、ヲ、基、幹、ト、シ、テ、以、テ、部、

ノ、部、紀、十二(中、中、一、小、部、一、

ノ、部、約、六十(中、中、一、主、部、一、

1467

三	隆陽山右岸地跡道路に車路を通 過困難なる際、河馬頭、小龍鑑、 馬ニ乗テ知リ 小龍鑑、橋梁、先づ跡取、通過す所 を、河馬頭、中興、一橋、築テ、通過す 修証、困難ナラズ 此、下流より、舟行ニ、橋梁、通 過スル要アリ（此、昔ニ、低キ橋ナリ） 河馬頭、舟車、企図ニ、甚キ難カ、西方ニ、通 過スル、西、南、方、大ヤ、極力、佐、手、中 大元月、下、外、西、方、一、通、而、モ、西、方、界 大ナリ 隆石、銘、道、跡、無、五、分、中、大元、辰 近、降、雨、多、月、下、外、跡、取、通、過、ノ 難、困難ナリ 此、隆陽、山、右、岸、地、跡、ト、合、合、る、た、り、以、テ	受信者	發信者	月	日	時	分	殿	發信地	於
---	--	-----	-----	---	---	---	---	---	-----	---

受	着	信者	殿	信者	信發地	信發於			
月 日 午	月 日 午	時 分							
傳時一分附附サレヨリニナリ元									
今迄平々々々申候由附一云が合て									
下達後持参ニテ元如早見ニ於テ									
此等の邊々五箇元改定ナリ									
午時一ニテ時々申用り初ニアリテ									
通ニテ協合する由何ニ色々ナリ									
ヲ取見セトモテナシヨク									
目下ニテ通候のみが解込ニシテ未タ元									
無ニテ今ヨリ團々ナリ 中様子ニテ									
按申合サレテ元何モナシニ空文									
ニ通サス何事ハ平々々々ナリ									
七、取端サレシ山砲支那ノ手絶力ニ暫ク									
ノ外ナリ今ヨリ略次時代ハ絶々ニ有テ									
臨ヨリ如得ヤレト大要ニ有テ今迄									
ノ協定ナリ夢ニ元ヨリ又ナリニ									
の事ナリ迄ニ									

1470

公刊

軍事機密

所謂德州ニ向フ前進要領

85部ノ内第23號

表紙共紙數七枚

1471

第一 方針

一 師團ハ武強新河間ヨリ水上機動ニ依リ滏陽河左岸地區ニ進出し石家莊方面敵軍主力ノ背後ヲ衝キセテ撃滅ス
出發時機ハ〇月〇日夜ト豫定ス

第二 一般要領

ニ 第十六師團主力ハ獻縣攻撃ニ引継キ直ニ舟艇ヲ利用シテ新河附近ニ進出し隨處ニ當面ノ敵ヲ撃破シツ、石家莊方向ニ突進ス
又一部ヲ以テ機ヲ見テ主トシテ水路ニヨリ速ニ新河附近ヨリ直路平漢鐵道ヲ遮斷ス、敵ノ抵抗ヲ受ケ新河ニ上陸困難ナルトキハ武強以西ニ於テ成ルヘク西方ニテ滏陽河左岸地區ニ進出ス
師團ノ殘部ハ獻縣附近ヨリ滏石鐵道路盤ニ沿ヒ架橋漕渡ノ方法ヲ併用シツ、滏陽河及其西側浸水地域ヲ渡過シ概ネ第百九師團ノ後方ヲ石家莊ニ向ヒ前進ス

三 編制

師團主力

師團司令部（獸醫部及各部約有乘馬、大行李、騎兵衛兵欠）

步兵第十九旅團（乘馬、小行李、大行李欠）

步兵第三十旅團（步兵、步兵隊、步兵隊、步兵隊、乘馬、小行李、大行李欠）

獨機關銃第六大隊（馬匹及車輛、大小行李欠）

獨機關銃第十大隊（馬匹及車輛、大小行李欠）

山砲兵第九聯隊第一大隊（馬匹、砲車以外、車輛欠）

臨時山砲兵中隊

工兵第十六聯隊一中隊（小隊欠）馬匹及器具、大部欠）

輜重兵第十六聯隊一部（馬匹、車輛、自動車、携行欠）

衛生隊（約三分一、馬匹、車輛欠）

野戰病院（二個）

給水班

四裝備

ノ從步隊布トシ火砲機關銃ハ人力ヲ以テ搬送ス

之ヲ爲山砲等ハ挽曳シ得ル如ク牽引用索條等ヲ携行ス

彈藥ハ努メテ多ク特ニ機關銃歩兵砲山砲彈藥ヲ多クス

其彈藥ハ乘船地ニ於テ支給ス

火砲發射器爆藥發煙筒等ヲ携行ス特ニ第一梯團

ニ於テ然リ

各舟艇ハ重機ヲ以テ裝備ス

第一梯團ニ屬スルモノハ努メテ地下足袋ヲ用ヒ又各人救命胴着

（代用品）ヲ裝スルモノトス

糧秣ハ各人少クモ一週間分ヲ携行ス

其糧秣ハ乘船地ニ於テ交付ス

輜重兵聯隊ハ兵（馬取扱兵ヲ除ク）ノミトシ上陸後土民ヲ利用シ縱列

ヲ編制ス

各人背囊ハ卸下シ背負袋ヲ使用ス

其交付ノ宿營地ニ於テス

ヲ上陸後ノ傳令勤務ノ爲自轉車聯大隊本部各一ヲ携行スヲ得

第三 準備

五 第一梯團ニ屬スル部隊ハ成ルヘク速ニ隊伍ヲ整頓シ彈藥糧秣ヲ補充シ出發ヲ準備ス

六 機動船隊ハ〇日迄ニ舟艇ノ手入修理ヲ完了シ藏家橋ニ船隊ヲ集結ス
七 〇月〇日機動船隊ハ乗船部隊ト連合シ乗船上陸折置舟ノ搬送其他ノ訓練ヲ實施シ相互錯誤ナカラシム

八 企圖ノ秘匿

舟艇又其機動準備ヲ隱蔽スル爲第一回藏家橋第二回以後
河馬頭附近村落内ニ軍隊以外ノ者ヲ禁止シ子河ニ民船ノ運行ヲ禁止スセカ爲同區域内ニ守備隊ヨリ監視網ヲ設置ス

其他部隊集結地外周ニ於ケル通信線ヲ遮断シ舟艇ハセヲ下流ニ向ケテ繫留スル等ノ手段ヲ講ス

第四 水上機動ノ要領

九師團ハセテ数梯團ニ分テ各梯團ハ機動船隊ノ能力ニヨリセテ
ニ方至三組ニ區分ス

其先頭梯團ハ其兵力歩兵ニ三大隊ヲ基幹トシ之ニ特ニ強大花獨
ヲ性ヲ附与シ敵前上陸ヲ行フ適セシム

其梯團區分ノ細部ハ別ニ計畫ス

上陸終レハ機動船隊ノ舟艇ハ逐次セテ廻航シ次ノ輸送ニ充テ

十水上機動ハ勉メテ夜暗ヲ利用スルモ航程其他ノ關係ニ依リ晝間
強行セサルヘカラスル場合アルヲ予期ス

十一前進ニ際シテハ飛行機ニ依リ事前偵察ヲ行フ外飛行機ニ依ル
誘導又ハ戦斗指導ヲ行フ(進路上ニ於テ天然人爲ノ水陸障礙
又妨害ノ偵知上陸点ノ指示・浸水状況ノ通報ト進路ノ選定指揮連
絡等)

十二進路上ノ警備

我部隊ノ行動ヲ秘匿ス爲部落等ヲ占據若ハ通過スル毎ニ
其附近ニ於テ通信線ヲ遮斷スルニ勉ム

十三 乘船地

第一回

藏家橋附近

第二回

河馬頭附近ト予定ス

第四

渡河後ノ行動

西師團ハ上陸地附近ニ於テ其兵力ヲ集結シ石家莊ニ向ヒ突進ス
此際一部ノ兵ニ爆藥ヲ携行セシメ平漢線ニ急派シ該鐵道ノ
破壊ヲ斷行ス

目的地タル新河ニ到ルニ先チ敵ノ抵抗ヲ受ケ前進困難ナル場合於
テハ隨所ニ上陸シ此敵ヲ撃破シタル後一意石家莊ニ向ヒ突進ス
其戰鬥ニヨリ僚艇ヨリ離レタル舟ハ四岸ニ在ル附近掩護部隊等ト
協力シ適宜行動スルモノトス

第五

師團ノ殘餘

六 師團ノ追撃ヲ德縣方向ニ指向セル如ク敵ヲ偽騙シ主力ノ渡河
行動ヲ容易ナラシム

七 爾後獻縣附近ヨリ滄石鉄道路盤ニ沿ヒ架橋漕渡等ノ方法ヲ
併用シソ、滄陽河及其西側浸水地域ヲ渡河シ概ネ第百九師團
ノ後方ヲ前進シ速ニ師團主力ニ合スルコトニ努ム

第六 通信

八 水上航行部隊ト陸地(獻縣若クハ陸地部隊)トノ通信

一 飛行機ノ視察ニ基ク通信

二 鳩通信(到着後)

九 上陸地部隊ト獻縣トノ通信

一 師團無線及軍無線

二 飛行機ニ依ル通信筒落下及吊上

三 鳩通信

十 師團主力ト三國支隊トノ連絡

1 師團無線

2 飛行機ノ情況通報

主 航行間船隊ノ通信ハ別ニ定ム所ニ依ル

第七

衛生

主 師團主力

1 師團主力ノ衛生機關ハ當初治療機關ヲ主トス材料ノ運搬ハ主
ニ依ル

2 後方輸送ハ逐次到着スル船隊ニ依ル

第八

補給

主 師團主力

1 水上機動ニカリ彈藥ハ勉メテ多クノ糧食ハ概ネ一週間分ヲ携行ス
師團輜重隊ハ十月一日迄ニ藏家橋ニ爾後毎日小範鎮ニ十四ノ大隊
分ノ糧秣ヲ所要ノ歩兵及山砲彈藥ヲ集積ス

2 上陸後彈藥糧秣ノ補給ハ船隊水上大行李水上輜重ヨリ上陸地ニ

集積セルモノニ依ル

③上陸後ノ補給機關ハ特ニ編成セル輜重隊ニ依ルモノトス
④補給ノ爲上陸地ノ集積要領

①水上大行李、水上輜重ハ獻縣附近ヨリ通行ニ方リテハ成ルヘク多クノ
糧食、彈藥ヲ積載ス

②機動船隊ハ兵力輸送後ハ專ラ彈藥糧食ノ集積輸送ヲ實施ス
ハ兵站ハ獻縣、衡水ニ其補給点ヲ推進スル筈

③糧食ハ精米、精麥、調味品、乾麵麪ヲ主トシ其他ハ現地物資ニ依
ルモノトス

⑤師團殘部

①三國支隊内各部隊ノ彈藥糧食補給ハ一般ノ要領ニ依ル

②三國支隊内ニ編成シテ師團大行李師團輜重ハ戰況ノ進展ニ伴ヒ

成ルヘク速ニ師團主力ニ合シ補給ニ任ス

第九 其他

五 師團主力方面ニ於テ輜隊ノ編成要領

本輜重ハ部隊行李、師團輜重及衛生隊ノ任務ヲ有ス

イ 長 片岡輜重兵少佐

ロ 臂力小隊 人夫ヲテ臂力運搬成ルヘク擔ヒ棒ニヨリ擔ヒ又ハ

急造担架ニ依リ二人一組トシテ搬送ス

ハ 駄載小隊 螺馬、牛、馬ヲ徵發シ勉メテ駄載ニ依ルモ力爲

駄鞍ヲ合セ徵發スルノ外所要ノ駄馬具ヲ携行ス

ニ 車載小隊 地方車輛(馬又人夫共)徵發ニ依リ、車輛區分ニ

依リ班ノ編成ヲ爲ス

三 六以上ノ人夫並運搬材料徵發ノ爲所要ノ徵發隊ヲ第二若クハ第

三梯團トシテ前進シ準備ヲ爲サシム

通譯、主計將校ヲ師團ヨリ配屬ス